

医療科学部(仮称) 理学療法学科・作業療法学科
学生の確保の見通し等を記載した書類

名古屋女子大学

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
① 学生確保の見通し	3
ア 定員充足の見通し	3
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	4
ウ 学生納付金の設定の考え方	13
② 学生確保に向けた具体的な取り組み状況	14
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	16
② 前述1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠	16

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見通し

入学定員については学習効果を達成できる環境を構築し、教育の質を担保できる人数として理学療法学科 50 人、作業療法学科 30 人の編成とした。学部の収容定員は 320 人となり、新築する学部棟もこれに適した規模となっている。理学療法士、作業療法士を養成する近隣競合大学の定員は（表 1）「近隣競合大学の理学療法士・作業療法士養成大学の定員」のとおり同数か、理学療法士が多い場合は作業療法士の 1.5 倍程度となっている。

（表 1）近隣競合大学の理学療法士・作業療法士養成大学の定員（単位：人）

	名古屋大	藤田医大	中部大	日本福祉大	星城大	名古屋学院大
理学療法士	13	70	40	40	40	80
作業療法士	13	45	40	40	40	—

各大学 HP より作成

<URL>

名古屋大学 http://www.nagoya-u.ac.jp/admission/upload_images/R3_admission.pdf

藤田医科大学 https://www.d-pam.com/fujita-hu/207172/index.html#target/page_no=12

中部大学 https://adm.chubu.ac.jp/entrance_exams/quota/

日本福祉大学 <https://www.n-fukushi.ac.jp/ad/admissions/system/guide/index.html>

星城大学 <https://seijoh-u-yume-jitsugen.net/cms/wp-content/uploads/2020/08/2021-seijoh-university-admissions-webs.pdf>

名古屋学院大学 <https://www.ngu.jp/admissions/admission/2020kekka/>

定員充足に関しては以下のデータから学生の長期的な確保が可能と考える。

- ・ 東海 3 県における人材養成への社会的必要性
- ・ 全国および近隣養成大学の定員充足状況と女子比率の高さ
- ・ 第三者による高校 2 年生女子生徒アンケート結果

詳細は次項イで説明する。

なお既設学科等の定員超過率で 0.7 倍未満は以下のとおりである。（基本計画書 P.3「既設大学等の状況」参照）

- ・ 名古屋女子大学文学部 児童教育学科児童教育学専攻（定員 480 人 定員超過率 0.61）

主に小学校の教諭を養成する専攻で平成 25 年度の改組により定員を 80 人から 120 人に増やしたが、近年の教員志向の低下により定員を充足できなくなっている。令和 4 年度の改組でもとの 80 人に戻す方針で、(表 2)「文学部児童教育学科児童教育学専攻(定員 480 人)入学定員超過の状況」の入学者数実績から見て令和 4 年度以降は 70% 未満という状況が改善されていく見通しである。

(表 2) 文学部児童教育学科児童教育学専攻(定員 480 人)入学定員超過の状況

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度
入学定員超過率	83%	65%	66%	54%	60%
入学者数	100 人	78 人	80 人	65 人	73 人

本学の過去入試データより

・名古屋女子大学短期大学部 保育学科第一部 (定員 300 人 定員超過率 0.58)

保育士、幼稚園教諭を養成する学科であるが、平成 30 年度の改組でワーキング・スタディコースとして 3 年制の第三部(定員 50 人)を設置したところ受験生の人気が高まり、第一部からの流出が顕著となった。特に令和 2 年度入試では第三部の指定校推薦が 41 件と、第一部 26 件の 1.6 倍もの出願となり、令和 3 年度入試で第三部の学校推薦枠を減らすこととなった。令和 4 年度入試に向けてはこうした受験生ニーズに対応するため、第一部の定員を 150 人から 100 人まで減らし、第三部を 50 人から 90 人に増やす予定である。(表 3)「短期大学部保育学科第一部(定員 300 人)入学定員超過の状況」にみられるように第三部が開設されて以降も 80 人から 90 人台で入学者数は安定しているため、令和 4 年度以降の定員充足に問題はないと考える。

(表 3) 短期大学部保育学科第一部(定員 300 人)入学定員超過の状況

	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度
入学定員超過率	62%	54%	62%
入学者数	93 人	81 人	94 人
三部入学者数(定員 50 人)	54 人	53 人	56 人

本学の過去入試データより

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

・東海 3 県の高齢化に伴う人材養成への社会的必要性

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成 30 年推計)」によると、65 歳以上の高齢者人口の割合は(表 4)「東海 3 県の 65 歳以上人口割合推計」に見られるように令和 27 年には愛知県で 33.1%、岐阜、三重の両県では 38%を上回るとされている

る。いずれの県でも令和2年に比べ8%近い増加となる。

(表4) 東海3県の65歳以上人口割合推計 (単位：%)

	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年
愛知県	25.4	26.2	27.3	29.0	31.6	33.1
岐阜県	30.5	31.7	33.0	34.6	37.3	38.7
三重県	30.1	31.2	32.6	34.2	36.9	38.3

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H30年推計)」より
(資料1)

<URL><http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/3kekka/Municipalities.asp>

その一方で、厚生労働省の平成28年病院報告によると、病院に勤務している人口10万人比の理学療法士、作業療法士の数は(表5)「病院勤務の理学療法士・作業療法士(人口10万人比)」のように、3県とも全国平均を下回っている。

(表5) 病院勤務の理学療法士、作業療法士数(人口10万人比)

	全国平均	愛知県	岐阜県	三重県
理学療法士	58.5人	45.6人	46.5人	40.5人
作業療法士	34.6人	25.3人	22.7人	25.8人

厚生労働省 平成28年病院報告より(資料2)

<URL>[病院報告 平成28年病院報告 下巻\(都道府県\) 従事者数 | ファイル | 統計データを探す | 政府統計の総合窓口\(e-stat.go.jp\) 表番号 G27](#)

以上のデータから東海3県においては理学療法士、作業療法士の需要が今後も長期的に維持されていくことが予想される。

・全国および近隣養成大学の定員充足状況と女子比率の高さ

<全国保健系養成大学の定員充足率>

まず、「私立大学・短期大学入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター)をもとに、リハビリテーションを含む保健分野を擁する全国の私立大学の入学定員充足率を調査したところ、(表6)「全国私立大学保健系の入学定員充足率推移」とおり、過去5年については安定的に100%を超えていることがわかった。保健医療分野への入学意欲の高さを示すものといえる。

(表 6) 全国私立大学保健系の入学定員充足率推移

H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R2 年度
104.14%	102.16%	101.06%	100.81%	101.34%

「私立大学・短期大学入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター)
 <URL>shigandoukouR2.pdf (shigaku.go.jp)

さらに、このうち(表 7)全国私立大学の内「リハビリテーション学部」の志願者数等の推移のとおり、「リハビリテーション学部」という名称の学部にと絞って調べた場合でも、志願者数はここ数年増加傾向にあり、この分野に対する受験生の関心の高さを示している。入学定員充足率も 100%前後で安定している。

(表 7)全国私立大学の内「リハビリテーション学部」の志願者数等の推移

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R2 年度
入学定員(人)	915	915	1,165	1,395	1,395
志願者数(人)	4,239	3,812	4,876	6,665	6,943
入学者数(人)	971	889	1,214	1,410	1,374
入学定員充足率	106.12%	97.16%	104.21%	101.08	98.49%

「私立大学・短期大学入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター)
 <URL>shigandoukouR2.pdf (shigaku.go.jp)

<近隣の養成大学の定員充足率>

愛知県内で理学療法士、作業療法士を養成する 4 年制の私立大学のうち、競合が予想される 5 大学(藤田医科大、中部大、名古屋学院大、日本福祉大、星城大)の、令和 3 年度の最新入試データについて分析する。

(表 8)近隣養成大学の志願状況及び入学者数、(表 9)近隣養成大学の合格者数及び女子の割合にみられるとおり、藤田医科大学は両学科とも前年より志願者数を増やしており(理学療法学 1.08 倍、作業療法学 1.06 倍)、定員も安定的に充足している。女子の合格者数も前年を大きく上回った。中部大学は志願者数こそ前年をやや下回ったものの、前年度未充足であった作業療法学の定員を充足している。女子の合格者は理学療法学で増加し 5 割を超えた。作業療法学の女子比率も 69%と引き続き高い。名古屋学院大学も志願者数を減らしたが入学者数に影響はなく、合格者に占める女子の割合は増えている。日本福祉大は入学者数が増え、特に理学療法学は大幅な定員超過(140.0%)となっている(女子の合格者比率は未公表)。星城大学は志願者数が半減したものの、両専攻とも定員を上回る入学者を確保している(女子の合格者比率は未公表)。

(表8)近隣養成大学の志願状況及び入学者数

大学名	学科・専攻	定員	志願者数		入学者数		定員充足率	
			R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度
藤田医科大	理学療法	70人	527人	573人	70人	70人	100.0%	100.0%
	作業療法	45人	251人	267人	50人	50人	111.1%	111.1%
中部大	理学療法	40人	621人	525人	47人	40人	117.5%	100.0%
	作業療法	40人	219人	214人	39人	41人	97.5%	102.5%
名古屋学院大	理学療法	80人	964人	774人	82人	84人	102.5%	105.0%
日本福祉大	理学療法	40人	425人	407人	39人	56人	97.5%	140.0%
	作業療法	40人	255人	201人	41人	45人	102.5%	112.5%
星城大	理学療法	40人	530人	244人	44人	44人	110.0%	110.0%
	作業療法	40人	320人	115人	33人	42人	82.5%	105.0%

旺文社入試情報サイト「パスナビ」及び各大学HP、本学による聞き取りから作成

(表9)近隣養成大学の合格者数及び女子の割合

大学名	学科・専攻	合格者数		うち女子の合格者数		合格者に占める女子割合	
		R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度
藤田医科大	理学療法	183人	224人	90人	125人	49.2%	55.8%
	作業療法	136人	163人	107人	109人	78.7%	66.9%
中部大	理学療法	80人	76人	37人	39人	46.3%	51.3%
	作業療法	111人	100人	85人	69人	76.6%	69.0%
名古屋学院大	理学療法	240人	191人	91人	77人	37.9%	40.3%
日本福祉大	理学療法	101人	136人	43人	未公表	42.6%	未公表
	作業療法	94人	131人	67人	未公表	71.3%	未公表
星城大	理学療法	148人	未公表	66人	未公表	44.6%	未公表
	作業療法	121人	未公表	68人	未公表	56.2%	未公表

旺文社入試情報サイト「パスナビ」及び各大学HP、本学による聞き取りから作成

<URL><https://passnavi.evidus.com/>

志願者数については既卒生の減少や新型コロナの影響による受験生の大都市圏離れ、受験校の絞り込みなど、令和3年度入試の傾向を反映するものとなっているが、各大学とも定員割れはなく、一定の水準の学生を確保できている。合格者数に占める女子生徒の割合は安定しており、女子生徒にとってこの分野が看護に次いで有望な進路選択となっていることを示している。

<リハビリテーション専門職養成課程を擁する女子大学の定員充足率>

本学医療科学部の特徴は女子大学における養成課程という点にある。このため、リハビリテーション専門職養成課程を擁する女子大学について定員充足率を調べた。

甲南女子大学については、(表 10)「甲南女子大学 看護リハビリテーション学部理学療法学科定員充足率等」にあるように、令和 3 年度の最新データで定員 60 人、収容定員 240 人に対する平均入学定員超過率が 1.10 倍、収容定員充足率が 1.01 倍であった。

(表 10)甲南女子大学 看護リハビリテーション学部理学療法学科定員充足率等

定員	収容定員	平均入学定員超過率	収容定員充足率
60 人	240 人	1.10	1.01

甲南女子大学HPより

<URL>[組織・教職員数・学生数 | 基本情報 | 大学案内 | 甲南女子大学 \(konan-wu.ac.jp\)](http://www.konan-wu.ac.jp)

また東京家政大学に平成 30 年度に開設された健康科学部リハビリテーション学科の収容定員充足率も、(表 11)「東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科入学者数」のとおり、令和 2 年度のデータにおいて理学療法学専攻で 1.03 倍であった。作業療法学は 0.80 倍と収容定員を割り込んでいるが、開設 3 年の間の入学者数は 21 人、32 人、43 人と年を追うごとに増えており、完成年度に向け順調に入学者数を増やしている。

(表 11)東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科入学者数

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	収容定員	在籍者数	収容定員充足率
作業療法学科 (定員 40 人)	21 人	32 人	43 人	120 人	96 人	0.80
理学療法学科 (定員 40 人)	33 人	40 人	51 人	120 人	124 人	1.03

東京家政大学HPより

<URL>[syu_you_te_i_in.pdf \(tokyo-kasei.ac.jp\)](http://www.tokyo-kasei.ac.jp/syu_you_te_i_in.pdf)

こうした例から見ても、中部圏で初となる名古屋女子大学でのリハビリテーション専門職養成課程が関心を集め、順調に学生を確保していくことが予想される。

・第三者による高校 2 年生女子生徒アンケート結果から定員の充足が見込める

両学科あわせた定員 80 名の充足が十分に可能であることの客観的、数量的な根拠を確認するため、令和 3 年度に高校を卒業する 2 年生女子を対象とし、令和 2 年 10 月から 12 月にかけてアンケート調査を実施した。なお、この調査は客観性を担保するため、第三者機関

(株式会社マイナビ)に委託した。調査対象校は東海3県を中心に本学への進学実績がある中部9県187校で、調査方法は各高等学校への郵送による配布・回収とした。回収状況は155校、有効回答票は12,567票(回収率64.0%)であった。

まず(表8)「医療科学部(仮称)理学療法学科への入学意欲度」、(表9)「医療科学部(仮称)作業療法学科への入学意欲度」、(表10)「理学療法学科と作業療法学科の重複状況」に見られるように、構想中の医療科学部(仮称)に「大変興味・関心がある」「興味関心がある」「少し興味・関心がある」を選択した人のうち、「入学を希望する」と答えた回答者は理学療法学科49人、作業療法学科39人で、双方の重複分29人を除いた実数は59人であった。これに「入学を検討する」を選択した回答者を合わせると理学療法学科138人、作業療法学科110人となり、双方の重複分84人を除いた実数においては164人となった。本学部への入学を前向きに考えている回答者が定員(80人)の倍以上いることが確認できた。さらに「状況によって入学を検討する」までの合計は理学療法学科680人、作業療法学科579人となり、双方の重複分512人を除いた実数でも747人となった。(※)

調査を担当したマイナビは「全体の考察」の中で「両学科とも定員は達するものとして考えられ、学生募集の見通しに関して、定員確保には問題ないと推定される」と結論付けている。(資料3)「医療科学部(理学療法学科・作業療法学科)に関する学生確保の見通しと社会的な人材需要の調査」p.54

(表12) 医療科学部(仮称)理学療法学科への入学意欲度

		回答数	構成比
1	入学を希望する	49人	1.2%
2	入学を検討する	89人	2.3%
3	状況によって入学を検討する	542人	13.8%
4	受験先の候補の一つとして考える	1,449人	36.9%
5	入学を希望しない	1,615人	41.1%
	無回答	186人	4.7%
	合計	3,930人	100.0%

(表13) 医療科学部(仮称)作業療法学科への入学意欲度

		回答数	構成比
1	入学を希望する	39人	1.0%
2	入学を検討する	71人	1.8%
3	状況によって入学を検討する	469人	11.9%
4	受験先の候補の一つとして考える	1,320人	33.6%
5	入学を希望しない	1,845人	47.0%
	無回答	186人	4.7%
	合計	3,930人	100.0%

(表 14) 理学療法学科と作業療法学科の重複状況 (表 8 及び表 9 をマトリクス表記)

(単位：人)

		作業療法学科						総計
		入学を希望する	入学を検討する	状況によって入学を検討する	受験先の候補の一つとして考える	入学を希望しない	無回答	
理学療法学科	入学を希望する	29	11	4	1	4		49
	入学を検討する	4	40	16	14	14	1	89
	状況によって入学を検討する	1	11	396	67	67		542
	受験先の候補の一つとして考える	3	4	29	1,169	244		1,449
	入学を希望しない	2	5	24	68	1,516		1,615
	無回答					1	185	186
	総計	39	71	469	1,320	1,845	186	3,930

表 8・9・10 とも「医療科学部（理学療法学科・作業療法学科）に関する学生確保の見通しと社会的な人材需要の調査」（資料 3）より

※理学療法学科・作業療法学科を併せた実数の算式は以下のとおり。(単位:人)

・「入学を希望する」理学療法学科 49 + 作業療法学科 39 - 両学科重複 29 = 59

・「入学を希望する」「入学を検討する」の合計

理学療法学科 (49 + 89) + 作業療法学科 (39 + 71)

- 両学科重複 (29 + 11 + 4 + 40) = 164

・「入学を希望する」「入学を検討する」「状況によって入学を検討する」の合計

理学療法学科(49 + 89 + 542) + 作業療法学科(39 + 71 + 469)

- 両学科重複 (29 + 11 + 4 + 4 + 40 + 16 + 1 + 11 + 396) = 747

以下、この入学意欲度のデータをもとに 2 つの観点から定員充足が確実である理由を述べる。

まず前述の競合大学の直近の入試データ (表 15)「近隣競合大学の志願状況及び入学者数」・(表 16)「近隣競合大学の合格者数及び女子の割合」から本学部の定員充足に必要な合格者数、受験者数を試算する。競合大学の入試倍率と入学率の係数は (表 15)「近隣競合大学の理学療法学科等における令和 2 年度入試データ」・(表 16)「近隣競合大学の作業療法学科等における令和 2 年度入試データ」のとおりである。

(表 15) 近隣競合大学の理学療法学科等における令和 2 年度入試データ

	A 志願者数	B 合格者数	C 入学者数	倍率 A/B	入学率 C/B
藤田医科大	527 人	183 人	70 人	2.88	0.38
中部大	621 人	80 人	47 人	7.76	0.58
日本福祉大	425 人	101 人	39 人	4.21	0.38
星城大	530 人	148 人	44 人	3.58	0.29
名古屋学院大	964 人	240 人	82 人	4.01	0.34
加重平均	3,067 人	752 人	282 人	4.08	0.38

旺文社入試情報サイト「パスナビ」及び各大学HPから作成

(表 16) 近隣競合大学の作業療法学科等における令和 2 年度入試データ

	A 志願者数	B 合格者数	C 入学者数	倍率 A/B	入学率 C/B
藤田医科大	251 人	136 人	50 人	1.85	0.36
中部大	219 人	111 人	39 人	1.97	0.35
日本福祉大	255 人	94 人	41 人	2.71	0.43
星城大	320 人	121 人	33 人	2.64	0.27
加重平均	1,045 人	462 人	163 人	2.26	0.35

旺文社入試情報サイト「パスナビ」及び各大学HPから作成

本学の定員からこれらの係数をもとに必要な合格者数、受験者数を試算する。

- ・理学療法学科（定員 50 人）・競合 5 大学の平均入学率 0.38 から、本学の定員充足のために必要な合格者数は 132 人となる。この合格者数に平均倍率 4.08 を掛け合わせると必要な受験者数は 539 人となる。
- ・作業療法学科（定員 30 人）・競合 4 大学の平均入学率 0.35 から、本学の定員充足のために必要な合格者数は 86 人となる。この合格者数に平均倍率 2.26 を掛け合わせると必要な受験者数は 194 人となる。

理学療法学科の場合、本学受験を前提とする「入学を希望する」「入学を検討する」「状況によって入学を検討する」を併せた人数は 680 人で、必要な受験者数 539 人を上回っている。また作業療法学科も同様に 579 人で、必要な受験者数 194 人の約 3 倍となっている。

両学科の「入学を希望する」「入学を検討する」「状況によって入学を検討する」の合計から重複を除いた実数も 747 人で、両学科の必要受験者数の合計 733 人を充たしていることから、定員充足は確実といえる。

次に入学意欲度のデータを本学の実際の入試方式に当てはめる。

平成 31 年度に本学が新設した健康科学部看護学科(1 学年定員 80 人)を例にとると、平成

29年に実施した第三者機関(マイナビ)による高校生アンケート調査結果では(表13)「健康科学部看護学科への入学を希望するか」のとおり「入学を希望する」が27人だったのに対し、平成31年度の専願入試では(表14)「平成31年度 健康科学部看護学科(定員80人)の入試データ」のとおり、54人が出願、42人が入学している。残る38人の定員に対しては一般入試などの併願入試で合わせて599人が出願し164人が合格、37人が入学しているが、このアンケートで「入学を希望する」、「入学を検討する」、「状況によって入学を検討する」まで併せた人数は365人であり、ここから専願入試の出願者数54人を除いた数(311人)の倍近い受験生(599人)が併願入試に出願したことがわかる。

(表17) 健康科学部看護学科への入学を希望するか

		回答数	構成比
1	入学を希望する	27人	1.7%
2	入学を検討する	78人	4.9%
3	状況によって入学を検討する	260人	16.4%
4	受験先の候補の一つとして考える	650人	41.0%
5	入学を希望しない	503人	31.7%
	無回答	69人	4.3%
	合計	1,587人	100.0%

「学生確保の見通しと社会的な人材需要の調査」

(2018年2月・マイナビ)より

(表18) 平成31年度 健康科学部看護学科(定員80人)の入試データ

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員超過率
専願入試	54人	54人	42人	42人	—
併願入試	599人	589人	164人	37人	—
計	653人	643人	206人	79人	0.99

本学の過去入試データより

看護学科の場合はさらに翌令和2年度入試で(表15)「令和2年度 健康科学部看護学科(定員80人)の入試データ」のとおり、専願、併願あわせて809人が出願し、前年の653人を大きく上回った。

(表19) 令和2年度 健康科学部看護学科(定員80人)の入試データ

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員超過率
専願入試	51人	51人	36人	36人	—
併願入試	758人	748人	228人	51人	—

計	809人	799人	264人	87人	1.09
---	------	------	------	-----	------

本学の過去入試データより

今回の医療科学部（仮称）の場合も、まず「入学を希望する」という本学を第一志望とする受験生は、（表16）「医療科学部(仮称)の募集人員」のうち専願入試（学校推薦型選抜及び総合型選抜）での受験が見込まれる。

（表20）医療科学部(仮称)の募集人員（単位：人）

	理学療法学科	作業療法学科	計
専願入試	25	15	40
併願入試	25	15	40
計	50	30	80

専願入試による募集人員は理学療法学科 25 人、作業療法学科 15 人の計 40 人であり、「入学を希望する」5割が両学科を重複して志望していることを考えあわせると、実数で 59 人の第一志望層はこの枠を満たすのに十分な数といえる。

残る定員(理学療法学科 25 人、作業療法学科 15 人)については併願入試（自己推薦型選抜、一般選抜、共通テスト利用、共通テストプラス）で確保する。構想中の医療科学部(仮称)の場合、「入学を希望する」、「入学を検討する」、「状況によって入学を検討する」まで併せた合計は理学療法学科 680 人、作業療法学科 579 人となり、実数でも 747 人を数えている。本学第一志望である「入学を希望する」59 人を除いても 688 人が受験を視野に入れていることがわかる。こうしたデータからも定員確保は十分可能であると確信している。

また、高校別にみると今回特に入学意欲が高かったのは本学の付属高校である名古屋女子大学高校であるが、本学とは日頃から授業交流などを通じて密な高大連携が図られており、生徒たちの新設学部への関心も高いことがわかった。今後安定的に入学者が期待できるものとする。

ウ 学生納付金の設定の考え方

医療科学部 理学療法学科・作業療法学科の初年度納付金は以下とする。（単位:円）

入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	諸費用	合計
200,000	800,000	380,000	250,000	59,000	1,689,000

入学金と教育充実費については本学の他学科と同額。授業料・教育実習費については看護学と同様に豊富な臨地実習を行う特性を考慮し、看護学科に準じる額とした。

※参考：本学健康科学部看護学科の初年度納付金 (単位:円)

入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	諸費用	合計
200,000	820,000	380,000	300,000	59,000	1,759,000

合計金額の 168 万 9000 円は近隣競合大学の初年度納付金と比べて低く設定されており、受験生・保護者にとって魅力の一つと考える。

※参考：近隣競合大学の初年度納付金 (単位:円)

	藤田医科大	中部大	日本福祉大	星城大	名古屋学院大
初年度納付金	1,846,000	1,755,300	1,855,800	1,770,000	1,828,500

各大学HPより

② 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

ア 学生募集の概要

本学における受験生募集のための広報活動は入試広報センターが中心となり、教員と事務職員全部署の協力を得て全学的に広報活動を実施している。新学部の開設にあたっては新たに理学療法学・作業療法学を志す高校生の開拓を目指し、2 学科合わせた出願者数の目標を 800 人とする

前述のアンケート調査結果によると(表 8・9・10)の通り、「入学を希望」「入学を検討」に出願の可能性のある「状況によって入学を検討」を加えた総数は理学療法学科で 680 人、作業療法学科で 579 人、重複を除いた実数でも 2 学科合わせて 747 人となっており、出願目標の達成は可能である。

イ 具体的な主な取り組み

<高校進路指導部との接触>

高校訪問については従来から教職員が手分けをして、愛知、岐阜、三重、静岡に加え石川、富山、福井、長野、滋賀各県の合計 490 校を年 1～2 回訪問している。令和 3 年度はアンケートに協力いただいた 187 高校を中心に、特に健康科学部の推薦枠がある 54 校を重点的に訪問する。効果として定員が同じ看護学科と同程度の 20 人を学校推薦型選抜の出願者として確保する方針である。

また高校進路指導部の教員を対象とする「入試説明会」を毎年 6 月に開催しており、令和 2 年度は来校 52 校、オンライン参加 10 校の計 62 校が参加した。令和 3 年度は医療科学部設置の意義について詳しく説明した上で新築の医療科学部棟の見学会も実施し、新学部開設を強く印象づける。全体の効果として 100 人(学校推薦型選抜出願者含む)程度の出願に結び付ける。

<進学相談会・高校内ガイダンスなど>

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で進学相談会の開催件数が減少したが、それでも50件以上のイベントに参加し、生徒や保護者約500人の相談に対応した。また高校内ガイダンスでは72校に39人の教職員が出向き、生徒約1,300人に本学の学びを説明した。さらに大学見学会には3校70人超を受け入れている。このほか接触者の減少を補うためZOOM機能を活用したWeb入試セミナー・相談会や一日体験入学を16回にわたって開催し600人超の参加を見た。令和3年度も同様の取組を実施するとともに医療科学部専任教員予定者の協力も得て、理学療法士、作業療法士を志す生徒との接触をめざし、効果として300人程度の出願につなげる。

<オープンキャンパス>

例年自由参加でのべ2,500人超を集めるイベントだが、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため人数制限の上オンライン開催なども取り入れ、5回の開催で来校型・Web型あわせてのべ1,258名が参加した。令和3年においては3月13日、7月17日・18日、8月14日・15日、10月9日の計6回実施を予定している。新設学部については専任教員予定者による学部、学科説明や模擬授業などを行い、新築の医療科学部棟見学も含めて理学療法学、作業療法学への興味・関心を高めていく。効果として200人程度の出願を見込んでいる。このほか感染症拡大の状況次第で1日体験入学の開催も検討する。

<広報媒体の活用>

新設学部のみならずスポットを当ててではなく、健康科学部の健康栄養学科、看護学科と協働する「チーム医療」の一員としての理学療法士・作業療法士養成をコアメッセージとして広報展開していく。

- ・特に医療、福祉系での広報効果が高い受験情報誌や受験情報サイトへの積極的な出稿。
- ・新学部紹介リーフレットを作成し高校訪問・進学相談会等に活用。
- ・本学入試情報サイトに新設学部のランディングページを開設。動画も搭載しビジュアル的にも理学療法学、作業療法学への関心を高める内容とする。
- ・令和4年度入試の出願促進にむけ、9月(推薦入試向け)と12月(一般入試向け)に新聞・Web・交通広告やテレビスポットCMなどを展開する。

これら全体の効果として400人程度の出願に結び付ける。

上記の取組の総数は1,000人となるが、各取り組みでの重複を除いた800人の出願が予測される。

<上記広報を実施する予算措置について>

令和2年度は学生募集費として1億4,000万円が予算計上され、令和3年度においてもほぼ同額が計上される見通しである。またテレビスポットCMなども例年予算化が認めら

れており、実施することは可能である。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本学では看護関連職種及び管理栄養士、歯科専門職種等の専門性を有する教員スタッフを擁しており、医療科学部（仮称）の設置によって「運動指導」、「日常生活指導」、「看護による健康相談」、「栄養及び口腔相談と指導」などのテーマを、有機的に相互に関連性を深めて学修することが可能となる。

さらに本学ではすでに大学が所在する名古屋市瑞穂区と連携して地域住民向けの公開講座を開催し、また健康科学部では地域住民の健康維持増進のため「名女健康サロン」と銘打った催しを実施している。この企画に医療科学部の理学療法学科及び作業療法学科がその専門性を持って参画することで、地域住民の健康増進プログラムの幅を広げられ、医療科学部の学生が多職種協働を実地体験できる貴重な機会を得ることになる。

また地域住民の健康増進に対する本企画は、学生の卒業研究や教員の学術的研究につながるまで発展可能であり、将来的に科学的根拠に基づく地域住民と行政への健康増進サービスの提案が可能となる。地域住民との多世代交流は学生に当事者意識を芽生えさせ、主体性の向上にもつながるなど高い教育的効果が期待できる。

②前述1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠

ア 今後の需給見通し

<愛知県の高齢化率>

愛知県は団塊の世代全てが75歳以上の後期高齢者となる2025年を前に、医療・介護分野をはじめ、これからの高齢者施策を話し合う「高齢社会懇談会」を2019年から2020年にかけて計4回開催した。この際用いられたデータによると、まず総人口に占める65歳以上人口の割合は、2045年には33.1%と、人口の約3分の1を占めることが予想されている。特に西三河地区以外では、県全体の平均を上回って高齢化が進むと見られている。65歳以上の単独世帯の割合も上昇傾向にある。

また、2025年の要介護者は26万5千人弱と、2018年度に比べ5万人以上増加。さらに認知症高齢者数も2012年の約24万人から2025年には最大で40万人に増加する見込みである。

(資料4)「愛知県第1回高齢社会懇談会」愛知県資料

<URL>https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/279496_1003681_misc.pdf

<愛知県における理学療法士、作業療法士の人材需要>

愛知県はこうした状況を踏まえ、2018年度から2023年度までの6年間を対象とした「愛知県地域保健医療計画」の中で、「軽度の要介護者の増加が著しいことから、介護予防の推進により自立生活の維持を図ると同時に、要介護者の自立支援のため、地域密着型サービスとの連携を図る必要がある」、また認知症対策として「認知症の予防、早期発見・早期対応及び認知症高齢者に適したサービスの質の向上、人材の養成等医療と介護が一体となった支援体制を構築していく必要がある」と課題をあげている。

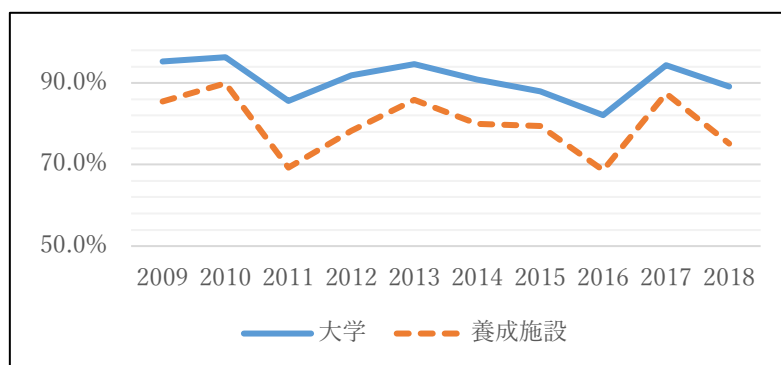
そのために欠かせないのが保健医療従事者の確保対策である。愛知県は上記「愛知県地域保健医療計画」の第3部「医療提供体制の整備」第9章「保健医療従事者確保対策」において、医師や看護職員と並び、理学療法士、作業療法士についても「資質の高い保険医療従事者の養成を推進する」と記載している。

具体的には、**県下の病院に勤務している理学療法士、作業療法士の現状**として、人口10万人あたりの人数を理学療法士45.6人(全国平均58.5人)、作業療法士25.3人(全国平均34.6人)とし、いずれも全国平均を下回っていることを示したうえで現状の養成施設数と規模を示し、課題として「理学療法士及び作業療法士は、人口の高齢化の進展に伴い、介護保険法等による訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション事業等で、今後ますます需要が多くなることから、質的、量的充実が求められる」と結論付けている。

(資料5) 「愛知県地域保健医療計画の概要(平成30年3月公示)」および第9章「保健医療従事者の確保対策」、第10章「その他医療を提供する体制の確保に関し必要な事項」
<URL> <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/iryo-keikaku/iryokeikaku.html>

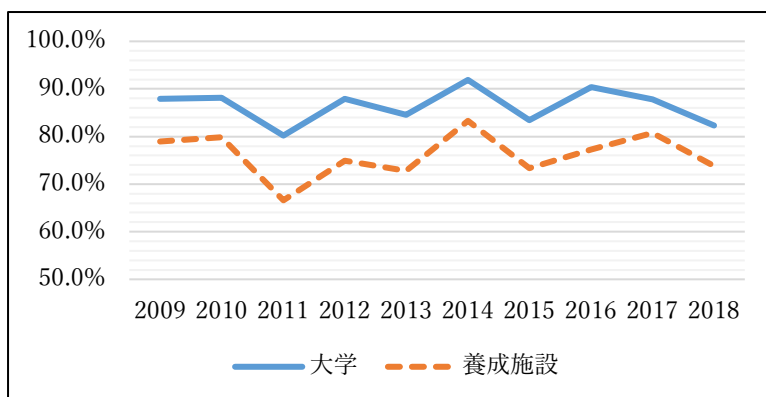
理学療法士、作業療法士の国家試験合格率で、(表21) 理学療法士の国家試験合格率、(表22) 作業療法士の国家試験合格率に見られるとおり、大学は過去10年、平均10%以上も専門学校を上回っている。

(表21) 理学療法士の国家試験合格率



(資料6) 「理学療法士・作業療法士の需給推計を踏まえた今後の方向性について」 p.6

(表 22) 作業療法士の国家試験合格率



(資料 6) 「理学療法士・作業療法士の需給推計を踏まえた今後の方向性について」 p.7

大学における養成の質の高さの証明となっているが、愛知県内の理学療法士養成施設 17 校のうち 10 校は専門学校であり、名古屋市内における理学療法士の養成大学は名古屋大学と名古屋学院大学の 2 校しかない。また作業療法士の養成施設は 12 校のうち 7 校が専門学校で名古屋市内の養成大学は名古屋大学のみである。

多様化する対象者のニーズに対応するセラピストの質向上のための教育は学士教育がふさわしく、愛知県の現状を踏まえた上でのリハビリテーション専門職養成課程の開設はまさに時宜を得たものといえる。

加えて、上記「高齢社会懇談会」で用いられたデータによると、愛知県の平均寿命は女性が 87.13 歳、男性が 81.30 歳で、健康寿命との差は女性が 10 歳、男性が 8 歳となっている。女性にとってリハビリテーションは長期間にわたり、中には排尿トラブルなどデリケートな症状にも取り組むため、同性である女性セラピストの需要は今後さらに高まっていくことが考えられる。(資料 4) 「愛知県第 1 回高齢社会懇談会」愛知県資料

<URL>https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/279496_1003681_misc.pdf

イ 第三者による事業所アンケート調査

医療科学部(仮称)卒業予定者 80 人についての採用ニーズが十分にあることの客観的、数量的な根拠を確認するため、東海地方の病院等事業所に対して令和 2 年 10 月から 11 月にかけてアンケート調査を実施した。なお、この調査は客観性を担保するため、第三者機関(株式会社マイナビ)に委託した。調査対象は東海 3 県の病院や診療所、保健福祉施設等 483 事業所で、調査方法は各事業所への郵送による配布・回収とした。回収状況は 147 事業所(回収率 30.4%)、有効回答票は 147 票であった。

まず、名古屋女子大学医療科学部卒業生の採用について「積極的に採用したい」と回答した事業所は(表 23)「医療科学部(仮称)卒業生を採用したいと考えますか」の通り、22 件(18.7%)に上った。また「一応採用を考える」「状況によって採用を考える」まで含める

と、回答数 117 の 9 割を超える 107 の事業所で採用の意向があることが分かった。

(表 23) 医療科学部(仮称)卒業生を採用したいと考えますか

		回答数	構成比
1	積極的に採用したい	22 事業所	18.7%
2	一応採用を考える	32 事業所	27.4%
3	状況によって採用を考える	53 事業所	45.3%
4	採用は考えていない	5 事業所	4.3%
	無回答	5 事業所	4.3%
	合計	117 事業所	100.0%

「医療科学部（理学療法学科・作業療法学科）に関する学生確保の見通しと社会的な人材需要の調査」（資料 3）より

次に採用者数を問う設問において 1 施設当たり複数人数の採用を希望している施設があることを受け、(表 24)「具体的に何名採用予定ですか」をもとに上記 107 事業所の採用予定人数を計算したところ、結果は理学療法士 90 人、作業療法士 110 人となった。

このうち「積極的に採用したい」22 事業所だけに絞った場合でも、作業療法士は 30 人であった。また理学療法士の場合は「一応採用を考える」まで広げると 63 人となった。

調査を担当したマイナビも全体の考察の中で「これらの背景としても各病院の慢性的な理学療法士・作業療法士不足の状況があり、地域の期待に応えるためにも、優秀な人材を養成する施設設置の需要は高いと見込まれる」と結論付けている。(資料 3)「医療科学部（理学療法学科・作業療法学科）に関する学生確保の見通しと社会的な人材需要の調査」p.55

(表 24) 具体的に何名採用予定ですか

理学療法士

採用数	積極的に採用	一応採用を考える	状況によって考える
0 人		5 事業所	15 事業所
0～1 人			1 事業所
1 人	12 事業所	15 事業所	15 事業所
1～2 人	1 事業所	1 事業所	2 事業所
2 人	2 事業所	2 事業所	
2～3 人	1 事業所		
3 人		2 事業所	1 事業所
4 人			1 事業所
5 人	2 事業所	1 事業所	

無回答・未定	4 事業所	6 事業所	18 事業所
事業所数合計	22 事業所	32 事業所	53 事業所
採用数合計	31 人	32 人	27 人

作業療法士

採用数(人)	積極的に採用	一応採用を考える	状況によって考える
0 人	1 事業所	2 事業所	8 事業所
1 人	12 事業所	15 事業所	26 事業所
1~2 人	1 事業所	1 事業所	2 事業所
2 人	4 事業所	5 事業所	3 事業所
3 人	1 事業所	1 事業所	
4 人			1 事業所
4~5 人	1 事業所		
5 人		2 事業所	
無回答・未定	2 事業所	6 事業所	13 事業所
事業所数合計	22 事業所	32 事業所	53 事業所
採用数合計	30 人	40 人	40 人

「医療科学部（理学療法学科・作業療法学科）に関する学生確保の見通しと社会的な人材需要の調査」（資料3）より

こうしたデータから理学療法学科 50 人、作業療法学科 30 人の卒業後の進路は十分確保できるものと考えられる。